



2010年は国連の「国際生物多様性年」であり、10月には愛知・名古屋において「生物多様性条約第10回締約国会議」が開催されます。

これまで、農業農村整備分野では、住民参加のもと農村地域の水質と生態系の保全のための取組を進めており、失われた魚類の産卵繁殖の場としての水田を復活させるため、水田魚道を設置するなど環境修復の取組を進めております。

国内外の関心はさらに高まり、調査研究の成果やその公開・発信への期待が一層高まる中、農業農村工学会京都支部と生物多様性国際会議対応小委員会では、これまでの環境修復の取組を振り返り、今後の活動の一助となるシンポジウムとパネル展を開催しますので、皆様方のご参加をお待ちしております。

開場：9:30	■主催者あいさつ	農業農村工学会京都支部長 東海農政局整備部長	内田 一徳（神戸大学農学部長） 田上 秀彦
開会：10:00	■基調講演	「環境修復の取組と課題」	農業農村工学会生物多様性国際会議対応小委員会 委員長（宇都宮大学教授）水谷 正一
閉会：15:30（予定）	■話題提供	(1)水路と水田の生態系 (2)環境修復のハード技術 (3)環境修復のソフト事業	(独)農村工学研究所 森 淳 水土里ネットふくい 鈴木 正貴 岩手大学農学部教授 広田 純一
	(昼休み) パネル展示 (13:00~14:00)		
	■パネルディスカッション		テーマ「農村における生物多様性の保全」 ・コーディネーター 水谷 正一 ・パネリスト 森 淳、鈴木 正貴、広田 純一 加藤 辰雄（愛知県安城市榎前町内会長）
	14:00~15:30		

日時：平成22年10月15日（金）10:00スタート

会場：中電ホール（名古屋市東区）

参加費無料

- 主催 農業農村工学会京都支部京都支部  
農業農村工学会生物多様性国際会議対応小委員会
- 後援 農業農村工学会生態工学研究部会、農林水産省

# 講演者及びパネリストのプロフィール

## ●水谷 正一(みづたに まさかず)

農業農村工学会生物多様性国際会議対応小委員会委員長(宇都宮大学教授、東京農工大学連合大学院教授)  
1948年東京都生まれ。1975年東京大学大学院農学研究博士課程、三重大学農学部、アジア工科大学院を経て現在に至る。

専門分野:水辺生態系の保全・計画、現代の水利と水資源の評価、モンスーン・アジアにおける比較灌漑システム  
主な著書(共著、分担):「地域環境工学概論」「水資源の枯渇と配分」「水利環境工学」「事例に学ぶ農業の技術者論」「春の小川の淡水魚」「水田生態工学入門」(H21年度農業農村工学会著作賞)など

## ●広田 純一(ひろた じゅんいち)

岩手大学農学部教授

1954年東京都生まれ。東京大学農学系研究科博士課程修了。

農学博士。専門分野:農村計画学。

著書 農業土木学会編『農村計画学』(農業土木学会, 1992年(2004年改訂版)), 山崎耕宇ほか監修『新編農学大事典』(分担執筆)(養賢堂, 2004年), 木村 礎ほか編『日本村落史講座第3巻』「景観Ⅱ 近世・近現代」(分担執筆)(雄山閣, 1991年)ほか

## ●森 淳(もり あつし)

農業農村工学会生物多様性国際会議対応小委員会委員。(独)農業・食料産業技術総合研究機構 農村工学研究所 農村環境部 生態工学研究室長

1962年栃木県宇都宮市生まれ。農林水産省に入省し農業農村整備事業の企画立案、実施などに携わったのち、2007年より現職。博士(農学)

農業生産と水田生態系が調和する水利システムを現場の視点から考えることが研究テーマ。

著書に、『農村の生きものを大切に作る水田生態工学入門』(水谷正一編著、農文協)、『農村自然環境の保全・復元』(杉山恵一・中川昭一郎編集、朝倉書店)、『食の安全と地域の豊かさを求めて—新しい畑整備工学—』(地域環境工学シリーズ)(新しい畑整備工学編集委員会編、農業土木学会)(いずれも共著)

## ●鈴木 正貴(すずき まさき)

水土里ネットふくい

1974年栃木県生まれ。東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程修了。

福井県土地改良事業団体連合会事業部環境計画課技師。博士(農学)。専門分野:農村生態工学。

## ●加藤 辰雄(かとう たつお)

愛知県安城市榎前町内会長、榎前環境保全会会長

1940年愛知県安城市生まれ。平成14年、メトロ電気工業(株)を退社。同年4月 安城市の榎前町内会会長に就任し現在に至る。人は大自然の中で生かされていることに感謝することをモットーに、平成19年度から始まった「農地・水・環境保全向上対策」の活動組織である「榎前環境保全会」の会長も務めている。

平成18年度から「水田魚道の生きもの調査」を始め、小学生にも田んぼの生きものや自然の生命力を教え続けており、こうした活動は新聞やテレビでも紹介された。

また、町内情報誌「ふれあい えのき」には、田んぼの生きもの調査結果などを掲載し、地域住民に身近な水田に生息する多くの生きものを気づかせるなど、水田魚道や生きものを話題に町内会の活発なコミュニケーションにも貢献している。

## 申し込み用紙

H22.10.15 農業農村工学会シンポジウム参加

お名前

所属

(ご住所)

(電話)

◇申込先……FAX 052-219-2667

◇お問い合わせ先……TEL 052-223-4633

(農業農村工学会京都支部事務局(東海農政局整備部設計課内))

※当日、会場の混雑状況により入場制限をさせていただく場合があります